

取組実績の概要 【2ページ以内】

人間活動の飛躍的な拡大は、人口増加・エネルギー消費量の増大・CO₂濃度の上昇・地球温暖化・大気汚染など、世界規模でネガティブインパクトをもたらしている。今日の社会には、こうした環境問題に適切に対応し、持続可能かつ自律的な発展のあり方を構築することが求められる。国連の2030アジェンダの中核をなすSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた一連の動きは、政府や自治体、社会の諸組織はもとより企業活動も含めたものとなり、特に社会基盤を形成する都市・建築は大きな転換期を迎えている。例えば、国際エネルギー機関（IEA）は、2035年までの経済成長の65%はOECD非加盟国のアジアで起こると予想し、アジア地域のエネルギー需要が益々旺盛になることを推測して、気候変動枠組条約を遵守すべくグローバルな環境保全と脱炭素社会の構築に向けたエネルギー変革の必要性を唱えている。

そこで、本事業ではアジア諸国の発展的持続化を図るため、都市・建築環境の全体を周辺領域まで俯瞰し、生活環境の実態や社会的・文化的背景を理解しながら、環境保全に関する広範な技術や政策を総合化し、環境施策を実践できる専門職人材を育成してきた。そのために、九州大学と同済大学と釜山大学は3大学コンソーシアムを形成して、都市・建築の多様性を共有しながら国境を越えた学びの場を提供するとともに、俯瞰力、実践力、国際力を兼備した専門家の育成を目的に、質の保証を伴った教育プログラムを国際的に広く普及させるため、下記の取組みを実践した。

1. 国際協働教育プログラムの構築

(1) プログラム実施体制の整備

本事業専任の教員とスタッフを配置し、派遣・受入学生が留学先で安心して修学できるように学習面・生活面での相談やサポートを行う支援室を設置した。また、3大学で形成されたコンソーシアムによる教育運営委員会を定期的開催し、参加学生の科目履修や課程修了に支障がないよう協働教育プログラムの運営に係る学務情報の管理方法、および単位互換や修了認定のプロセスを構築した。特にダブル・ディグリー・プログラムにおける修了プロセスについては、3大学の教員で構成されたCA委員会（CA Committee）を設置し、3大学が協働して修了認定を行う体制を整備した。

(2) 教育管理 Web システムの構築と活用

3大学共同で情報を共有・管理するための教育管理 Web システムを構築し、国際ワークショップの開催情報、学生名簿や成績等の情報を厳密な管理のもとで共有した。毎年8月に協働開催するサマースクールでは、参加教員と各学生に教育管理 Web システムの ID アカウントを配布して積極的に活用し、スケジュール、教材共有、課題提出などをスムーズに管理することで、効率的な協働教育を実施した。

(3) 国際標準モデルの普及と国際広報

2017年3月からポータルサイトの運用を開始し、国際ワークショップやサマースクールの企画・実施状況、協働教育プログラムを通じて得られた成果等の最新状況を掲載して、国内外に広く情報発信してきた。また、協働教育プログラムの概要、およびダブル・ディグリー・プログラムを紹介するリーフレットを日本語版と英語版で作成した。それらを、関係する国際学会、国連ハビタットとの国際フォーラム、海外大学との国際ワークショップ、入学オリエンテーション等において配布するとともに、教育の国際化に取り組む国内外の関係大学へ送付することで、本事業の発展および国際協働教育に資する標準モデルの普及に努めた。

(4) ダブル・ディグリー・プログラムの構築

2017年より開催された3大学コンソーシアムによる会議にて、カリキュラムや単位互換、論文指導および論文審査学務上の条件について検討し、2018年2月に釜山大学、同年6月に同済大学とダブル・ディグリー協定を締結した。2018年4月から本協定に基づき、プログラム運営を開始した。2018年12月にはCA委員会を結成し、修士論文査定プロセスを構築した。プログラム修了学生へは、3大学の共通の修了書を発行し、付与した。

2. 国際協働教育プログラムの実施

(1) 短期派遣・短期受入の実施

同済大学と釜山大学は、本事業の一環としてコンストラクション・フェスティバルや釜山ウィンターワークショップ等の短期交流プログラムを継続的に開催しており、2017年2月から2020年に開催された短期交流プログラムに、120名を派遣し、オンラインプログラムに4名の学生が参加した。一方、九州大学は同様に短期交流プログラムとしてサステナブルデザインキャンプやサマースクールを開催し、同済大学と釜山大学から延べ52名の学生を受入れた。

(2) 長期派遣・長期受入（セメスター交流およびダブル・ディグリー・プログラム）の実施

長期派遣および受入については、2017年10月にセメスター交流プログラムをスタートし、2018年4月にはダブル・ディグリー・プログラムを開始した。2017年から2020年までにセメスター交流にて12名、ダブル・ディグリー・プログラムにて釜山大学・同済大学からは16名（オンラインも含む）受け入れ、本学は5名の学生を派遣した。

(3) 3大学協働教育プログラム（サマースクール）の実施

3大学が協働する教育プログラム（サマースクール）は、各大学の持ち回りにより開催地域を毎年変更して行っている。本協働教育プログラムは、急速な発展を遂げるアジア諸国の抱える都市・建築環境の問題を解決するため、グローバルな視点に立脚した質の高い専門知識を持った人材育成を目的としており、各大学で選抜された5～10名の学生を対象に実施している。三週間のプログラムは、コア科目2科目と実践科目で構成され、参加学生は関連分野を学びながら、社会動態に応じてその地域の環境問題に対する解決案の提案を行っている。

(4) 英語力向上セミナーの実施

本事業に参加する学生を中心に、毎年、長期派遣前に英語力向上セミナーを2ヶ月間実施し、2017年から2020年の4年間で、全5回のセミナーを開催し、延べ61名の学生を支援した。受講生は、自分の研究について英語によるプレゼンテーションを行うことを目標に、英語脳を鍛え、プレゼンでの表現方法や構成等を学びながら全90分15回を受講した。最終日には、実際に自分のものとして表現できるように実際の各個人の研究内容のプレゼンを行った。

【本事業における交流学生数の計画と実績】

(単位：人)

	2016年度		2017年度		2018年度		2019年度		2020年度		合計		
	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	
計画※	5	0	20	20	20	20	30	25	30	25	105	90	
実績	実際に渡航した学生 (以下「実渡航」)	17	0	37	22	44	20	27	19	0	0	125	61
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講した学生 (以下「オンライン」)							-	-	4	19	4	19
	実渡航とオンライン受講を行った学生 (以下「ハイブリッド」)							-	-	-	-	-	-

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】**I. 国際ワークショップへの派遣**

コンストラクション・フェスティバルや釜山ウィンターワークショップなど、各種国際交流プログラムへの学生派遣・受入を継続的に実施した。いずれのプログラムにおいても、他大学の学生と協働で課題に取り組むカリキュラムやグループディスカッションが設けられており、これらを通して、参加学生は幅広い知識の習得と実践力を得ることができている。また、海外の学生と混合チームを組み、コミュニケーションを図りながら、一つのデザイン・提案を共同で行う機会を多く設けるアクティブ・ラーニングを実施することで、本事業が目標としている国際的に活躍できる都市・建築環境の専門家の育成、それに必要なコミュニケーション力やプレゼンテーション力の養成と国際教育における環境の充実を図ることができた。

II. サマースクールの開催

本学で開催するサマースクールでは、中国・韓国からの留学生を受け入れ、3大学協働によるコア科目、実践科目を実施している。福岡市内の特定の地域を対象として、本学の学生を含め約20名の参加学生が3週間にわたり現状分析と将来の再開発計画を提案している。歴史・文化・経済などの生活環境が異なる国の学生が本プログラムを通じて具体的な課題に協働で取り組むことは、世界的な環境問題を共通認識してインフラとなる都市・建築に対する相互理解を深めるとともに、生活空間に対する新たな価値観を得る機会となっている。さらに、3大学の学生による混合グループを形成し、共同してデザインの提案を行う機会を多く設けることで、コミュニケーションを取る必然性が高まり、国際舞台で活躍するために必要な英語力と国際力を効果的に培うことができている。また、2019年以降、コロナ禍の影響により、オンラインによる実施となり、現地視察はビデオ配信を行い、現地の学生と混合のグループワークを行うことで、質を伴ったプログラムとなるよう工夫した。

III. 教育管理WEBシステムの活用

学生の修学や教員の指導を支援するため、2017年3月に教育管理WEB システムを導入し、同年8月に開催されたサマースクールから本格的な活用を開始した。WEBシステムを介して講義内容や教材を共有することで、事前準備を含めて円滑な協働教育を可能にしている。また、WEBシステム内に各グループが作業可能なサイバースペースを設けることにより、グループ内で情報や活動状況が逐次共有され、共同作業の効率化につながっている。さらに、プログラム期間が終了して帰国した後やオンラインでの授業受講も本システムを介して、3大学の学生はサイバースペースにおいて遠隔で共同作業を行うことが可能であるため、プログラム成果の書籍出版作業もスムーズに実行できている。

IV. ダブル・ディグリー・プログラムの実施

2016年度より3大学コンソーシアムにおいて7回にわたり運営委員会を開催し、ダブル・ディグリー・プログラムの実現に向けて単位認定条件・方法や論文審査方法等の検討を行い、3大学による学位授与の共通した枠組みを構築した。2018年2月に釜山大学とダブル・ディグリー協定の締結を行い、続けて同年6月に同済大学とも協定を締結した。2018年4月より釜山大学とダブル・ディグリー・プログラムを開始し、2020年度までに21名の学生（釜山大学より9名、同済大学より7名、本学より5名）が参加し、うち7名（釜山大学より5名、本学より2名）のダブル・ディグリー・プログラム修了生を輩出した。

V. 英語力向上セミナーの開催

本プログラムへ参加希望の学生および留学予定の学生を対象に英語力向上セミナーを開催している。英語能力の中でも、特に建築学科の学生にとって必要な「英語で討論できる力」と「英語でプレゼンテーションできる力」の習得に焦点を当てた2部構成の授業となっている。最終授業では各学生が自分自身の研究について英語でプレゼンテーションを実施している。また、受講生には特にTOEIC やTOEFLの受験を促し、英語能力を測るよう推奨している。コロナ禍の対応としては、前半部分をオンライン授業にて実施し、後半を少人数の対面で行うことで、前半はオンラインの特性を生かし、個人個人の指導を行い、後半ではコミュニケーション能力を伸ばすことに焦点を当てた指導が行われた。この結果、学生の外国語への学習意欲を保ったまま、英語を学ぶことができ、英語力向上に繋げることができた。